

「クリスマスプレゼント」

第 1 話

—初稿—

2022/12/16

川尻 佳司

〈人物表〉

北条 雄二 (38) 日雇い作業員

北条 隼人 (5) 保育園児

玉城 九官 (76) アパート経営者

取立て屋 A (27)

取立て屋 B (21)

〈ログライイン〉

うだつの上がらない雄二がパチンコで当てるが、全うに生きようと借金のために奴隷労働することになる。

1 北千住・千住アパート（3階建て）・1階北条家の部屋（夜）

北千住のアパートの1DKの8畳北条家。電気の消えた暗い部屋の窓の外から曇った空が見える。
北条隼人（5）が仮面ライダーの靴下を目の前に布団に入って窓の外を見ている。

2 北千住・パチンコ店

北条雄二（38）がパチンコしている。

雄二の台がリーチになる。

目を見開く雄二。

リーチで音楽が鳴り響き、演出が盛り上がる。

力が入る雄二。

リーチは外れる。

固まる雄二。

× × ×

台を後にする雄二。

雄二、景品の仮面ライダーのベルトを見つめる。

雄二、出口に向かう。

ふと、プレイヤーが席を離れた台がリーチになって

いるのが雄二の目に留まる。

雄二が見つめていると、大当たりになる。

あっけにとられる雄二。周りを見回しても主はいな

い。

あわてて、雄二が台に座り玉を打つ。

確変でさらに大当たりになる。

笑いを隠せない雄二。

玉城 「兄さん、景気よきそうだな」

玉城九官（76）が雄二の後ろに立っている。

雄二 「いやいや、たまたまですよ」

玉城 「ちよつとのが渴いたんでそのコーヒーくれる

か？」

雄二 「えっ、（台の横にある缶コーヒーを見て）ああ

（缶を掴み玉城に渡しながら）どうぞどうぞコー

ヒーでもビールでも」

玉城 「どうも」

玉城がコーヒーを飲む。

雄二 「(玉城の方を振り返り) えっ九さん」

× × ×

玉城がパチンコしている横で雄二が座っている。

雄二 「きたきたきたきた」

玉城の台がリーチ。

雄二 「こいこいこいこい」

台の演出が盛り上がり、大当たり。

雄二 「よっしゃー」

玉城と雄二がハイタッチする。

× × ×

店内交換所で玉城の持ち玉7万5878発が表示される。

3
宿場町通り商店街(夜)

雄二と玉城が並んで歩いている。

雄二の手には仮面ライダーベルトが抱えられている。

雄二 「いやあ、ありがとうございます、ほんと助かりました」

玉城 「これもあんたの運だよ、ガキがいるんなら、少し

はまじめにやるんだな」

雄二 「ははっ」

取立て屋A「北条」

取立て屋A(27)が雄二を睨んでいる。

振り返って雄二、取立て屋Aを確認する。

雄二 「(前方に駆け出して玉城に向かって)ほんとありがとうございました」

玉城、険しい顔で雄二を見つめ、取立て屋Aを見る。

雄二を追いかける取立て屋。

取立て屋Aが玉城の横を通る時、玉城が取立て屋Aの脚をひっかける。転ぶ、取立て屋。

逃げ去っていく雄二。
起き上がる取立て屋A。

取立て屋A「クソジジイ」

小走りで駆けていく玉城。

4 千住ほんちよう公園（夜）

タコの滑り台の影に隠れている雄二。

少し離れて、雄二に気づいていない取立て屋Aと取
立て屋B（21）が探している。

取立て屋に捕まっている玉城。

取立て屋B「ジジイ、北条呼んで来い」

玉城「知るか、あいつとはパチンコで初めて会ったんだ

名前も知らん」

取立て屋Bが玉城の顔をはたく。

それを痛々しく物陰から見ると雄二。

取立て屋B「お年寄りには優しくしましょう、ははは」

痛みで顔を抱える玉城。

取立て屋B「あんま舐めんなよ」

取立て屋A「知らねえな」

取立て屋Bが玉城の服を物色し、財布を見つける。

取立て屋B「ジジイ金持ってんじゃん」

雄二が仮面ライダーベルトの箱を強く握ると光って

音が鳴る。焦る雄二。

取立て屋A・B、音のする方を見る。

雄二がゆっくりタコの滑り台から姿を現す。

雄二「じいさんいたぶってたのしいか、チンピラどもが

よ」

雄二の腕が震えている。

取立て屋A「ほう、よく出て来たな、借りた金も返さねえ
で遊んでりや世話がねえぜ」

取立て屋A・Bが雄二に近づいていく。

玉城「（雄二を見て）ばか」

窓ごしに雪が降っている。

窓からの雪明りに照らされて眠っている隼人。

窓に玉城の顔が出てくる。

ゆっくりと窓を開ける玉城。

動く隼人。

玉城がゆっくりと靴下の横に仮面ライダーベルトを置く。

玉城が不意に隼人を見やると、

隼人のしつかりと玉城を見ている。

固まる玉城。

隼人 「おじさん、サンタ？」

玉城 「……」

隼人 「（仮面ライダーベルトを見て）あ、ありがとう、

（玉城を見て）ねえ、あのさ、サンタのおじさんに頼みたいことがあるの、もしお願い事が一つだけなら、これは返してもいいから」

玉城黙って隼人を見つめる。

隼人 「お母さんがね、またおうちに帰ってくるようにね、

お父さんの、お父さんの仕事助けてくれない」

玉城 「お父さんの仕事？」

隼人 「うん、お店やってたんだ、フランス料理だよ、でもコロナでお客さんが少なくなっちゃったんだって」

玉城 「わかった……わかったよ」

雄二が数人の男たちとプノンペン行きの手乗り口へ向かう。

雄二が名残惜しそうにターミナルの見送り客を見やる。

渡航客の中に隼人と玉城がいる。

隼人を発見した雄二。

雄二 「隼人、隼人」

隼人が雄二の声で発見する。

隼人 「お父さん、お父さん」

雄二 「隼人、どうしてここが、隼人」

雄二の周りの男たちが雄二を抱えて搭乗口へ向かう。

玉城 「必ず戻ってこい」

雄二 「じいさん、お願いします、必ず戻ってきます」

隼人 「お父さん、お父さん」

雄二 「隼人、父さん必ず戻ってくるから、おりこうで

待っててくれな」

隼人 「お父さん」

雄二 「ちくしょう、ちくしょう、隼人、ごめんな、隼

人」

隼人 「お父さん」

搭乗口に消える雄二たち。

隼人と玉城がそちらを見つめている。

2人は空港の乗降客たちの中に埋まっていく。

(終)